

分科会（公開授業会場）

学校名 ・校長名 ・所在地 ・電話番号 ・級地、学級数	児童 生徒数	公開授業		研究主題 ～サブテーマ～ ○数字 関連課題
		1 校 時	2 校 時	
たなべしりつりゆうじん 田辺市立 龍 神 小 学 校 A ・畑中 健 ・田辺市龍神村湯ノ又 68 ・0739-79-0255 ・2 級地、複式 3	20	1・2年【国語】 3・4年【国語】 5・6年【国語】 (説明文を中心にして)	全校 【生活科・総合的な学習の時間】 (「ぼくとわたしの龍人学」)	『考え、思いを伝える子どもの育成』 ～どの子も参加できる授業作り (国語科を通して)～ ④
たなべしりつりゆうじん 田辺市立 龍 神 中 学 校 B ・後 伸夫 ・田辺市龍神村安井 1048-1 ・0739-78-0014 ・1 級地、単式 4	101	1年 【道徳】 2年 【道徳】 3年1組【道徳】 3年2組【道徳】	全校 【学級活動】 (宿泊体験成果発表会)	『道徳の時間を核として、教育活動全体を通じて行う豊かな心の育成』 ～「人」・「自然」・「命」とつながる豊かな心づくり～ ①③
たなべしりつあきづがわ 田辺市立 秋 津 川 小 学 校 C ・寒川 貴子 ・田辺市秋津川 6 8 3 番地 ・0739-36-0351 ・無級地、複式 2 単式 2	28	1年 【国語】 2年 【算数】 3・4年【国語】 5・6年【算数】	全校 【生活】 【総合的な学習の時間】 【音楽】	『自ら求め、共に学び合う子の育成』 ～学びの基礎・基本の定着を図る授業の取り組み～ ⑥

研究内容	学校・地域の紹介
<p>○授業の中で、考える場や思いを伝える場を設定し、自ら学習していく方法を身につけることや話し合い活動の中で自分の思いを伝えることに視点をあて、「考え、思いを伝える子どもの育成」に迫る。</p> <p>○どの子どもも参加できる授業作りをめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的に活動する授業の工夫 ・つきたい力を明確にした授業の工夫 ・学習のねらいにあった効果的な学び方や表現のしかたの提示と活用の工夫 ・学年に応じた発表の工夫 	<p>○本校は和歌山県田辺市の最北部、龍神村にある学校で、紀伊山脈の中央部に位置する。護摩壇山や隣接する県下最高峰として認められた龍神岳付近を源流とする日高川沿いにある学校で、美しく清らかな山や川に囲まれ、自然に恵まれた学校でもある。</p> <p>○校区には、高野龍神国定公園もあり、林道沿いには原生林が残されており、古木、初夏の新緑、秋の紅葉、滝など人々の目を楽しませてくれる。また、春から秋にかけては、アメノウオ・アユなどの溪流釣りが楽しめる。</p> <p>○昭和22年には、338名いた児童数が40年に197名、60年に63名となり、本年度の20名までに減少した。1・2年（8名）3・4年（6名）5・6年（6名）の複式3学級編成である。校区が広く、9名の児童がスクールバスで登校している。</p>
<p>○全教職員が、道徳教育を教育活動全体を通じて行う意識を高め、各教科、総合的な学習の時間、特別活動において道徳的ねらいを明確にして指導にあたることを目指した。</p> <p>○本校は、「人」や「自然」にかかわる体験活動や「命」の大切さを考える平和学習に積極的に取り組んできた。他者や社会、自然や環境との関わりの中で、生徒は、思いやりの心や規範意識、自然や文化を尊重する心、生命の大切さ、感謝の気持ち等を学び、道徳性を育んでいる。</p> <p>○全教職員の道徳教育への意識を高めること、体験活動を全教職員の共通認識のもとで充実させていくことは、「道徳の時間」の指導の質的向上と、教育活動全体で取り組む道徳教育の充実につながっていくと考える。そして、そのことが、生徒の豊かな心の育成につながっていくと考え、本研究主題を設定した。</p>	<p>○平成19年度、旧龍神村（人口約3900人、所帯約1700戸）の龍神・下山路・虎東の三つの中学校が統合され、現在の龍神中学校が発足した。</p> <p>○田辺市の北部の日高川上流部が本校の校区であり、ほとんど平野はなく河岸段丘や溪流沿いに点在する集落から成り立っている。</p> <p>○校区には、公共施設や商店の多い地域の中心部の他、日本三美人湯の1つとして有名な龍神温泉の観光地や溪谷沿いの山深い地域もある。校区の面積は255k㎡と広大で、田辺市の約四分の一を占めている。</p> <p>○遠距離を通学する生徒が多く、3路線の通学用スクールバスを運行し、半数以上の生徒がこのバスを利用している。</p>
<p>児童が自ら求め、学びあう授業</p> <p>○学びの基礎基本の定着</p> <p>○児童が学習過程を把握した授業</p> <ol style="list-style-type: none"> ①児童一人ひとりが単元全体の流れを把握した授業 ②児童一人ひとりが1時間の学習過程を把握した授業 ③書くことを大切にされた授業 ④複式授業の特性を考慮した授業 	<p>○明治9年に開校され、創立136周年を迎える。</p> <p>○田辺平野の北部に位置し、標高175mの山間地である。高尾山の北側の山間を流れる二つの川に沿って民家が点在している。面積25.15k㎡、人口750名、世帯数313世帯（平成24年3月末調べ）である。人口の減少が進み、高齢者の占める割合が毎年大きくなっており、児童数も減少している。</p> <p>○地域の多くの家庭は米・梅・みかん・野菜などの田畑を持っているが、専業農家は少なく地域外で勤める人が多い。</p> <p>○平成4年に中村地区の山林を開墾し33haの梅畑が完成した。平成9年には紀州備長炭記念公園が開園し、同年に秋津川振興会も組織され地域活性化に取り組んでいる。</p> <p>○龍神方面への道路整備、田辺市までの高速道路の延長により交通量が増えたが、周りには自然がたくさんあり、鳥の鳴き声が響きわたる静かな風情が残っている。</p>

分科会（公開授業会場）

学校名 ・校長名 ・所在地 ・電話番号 ・級地、学級数	児 童 生徒数	公 開 授 業		研 究 主 題 ～サブテーマ～ ○数字 関連課題
		1 校 時	2 校 時	
たなべしりつながらの 田辺市立長野小学校 D ・柳原 修 ・田辺市長野641番地 ・0739-34-0034 ・無級地、複式3	19	1・2年【国語】 3・4年【国語】 5・6年【国語】	全校 【国語】 群読	『伝え合うことで自らの学びを深める子どもの育成』 ～確かな読みを培う国語の授業を目指して～ ⑥
たなべしりつみきと 田辺市立三里小学校 E ・植 涉 ・田辺市本宮町伏拝966 ・0735-43-0004 ・1級地、単式2 複式2 特別支援1	44	1年 【国語】 2・3年【国語】 4・5年 【総合的な学習の時間】 6年 【総合的な学習の時間】	全校 1～3年【生活・総合的な学習の時間】 4～6年【国語】 発表	『自らすすんで学習に取り組む児童の育成』 ～体験活動を活かした取り組みを通して～ ③
たなべしりつほんぐらう 田辺市立本宮中学校 F ・濱中 真哉 ・田辺市本宮町本宮730 ・0735-42-0273 ・1級地、単式3 特別支援1	78	2年 【国語】 3年 【家庭】	1年 【数学】 3年 【家庭】	『広がる世界 伸びゆく個性 確かな学力 豊かな心』 ～ひとつのふるさと ひとつの学校 より豊かな教育環境をめざして～ ②

研究内容	学校・地域の紹介
<ul style="list-style-type: none"> ○国語科の「読むこと」の領域に焦点を絞り、確かな読みを培うための中心発問を工夫し、PISA型読解力の向上をねらう。 ○①発問の工夫、②ワークシートの開発、③「用語・方法・原理原則」の指導(直接指導の充実)、④音読(朗読)の充実を研究の中心として、国語科における複式の授業を展開する。 ○読解指導と音読(朗読)指導を双方向で捉え、授業ばかりでなく朝の活動にも全校朗読(群読)を設定するなど特色を持たせた確かな読みへとつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本校は、明治7年より当地方の文化の拠点として校訓「誠実」を柱とした教育活動が、営々と続けられており百三十年余の歴史を刻んでいる。 現在3学級、児童数19名、教職員数10名である。 ○田辺市街より約12km北東に位置し、本校の東側を流れる会津川には多くのホテルが生息し、地域全体が「ホテルの里」と呼ばれ、毎年ホテル祭りが行われている。 また、長野は「古城梅(ごじろうめ)」発祥の地であり、地域の地場産業として、広大な梅畑による梅の栽培が盛んに行われている。
<p>～地域の教育力をいかした教育活動の充実～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心豊かにたくましく生きる児童を育成するため、教科や道徳、特別活動との関連を明確にした教育活動や体験活動を、体験だけに終わらせない取り組みの研究を進めている。 ○教科指導の中で、さまざまな活動を通して子どもたちが自主的・主体的に解決できる力を育成する。 ○音無しの里地域コミュニティ(学校支援組織)事業との関連を図りながら、地域の自然や環境、文化、歴史等を学ぶ「ふるさと学習」を通して、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本校は田辺市中心部より約60km行った山間に位置する。 ○世界遺産登録された「熊野古道」中辺路ルートに当たり、熊野本宮大社からも近い。 ○校区の人口は約1400人で世帯数は約650戸。 ○昨年度より複式授業を本格的にスタートさせ、研究主題に位置付け取り組んでいる。 ○地域の特色を活かし、地域の協力による体験活動を多く取り入れたふるさと学習に力を入れている。(古道学習・米作り・間伐体験・木工教室・川学習・昔の遊び・) ○平成22年度に県の補助金事業を活用し、保護者・近隣中学校・地域住民の協力を得て運動場の芝生化を実施した。
<p>～統合・開校に向けた取組を通して～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○統合に向けての交流学習(交流行事・交流授業)を通して、開校という新たに広がる世界の中で、勉学や部活動に励み、仲間を大切に、それぞれの個性を精いっぱい輝かせることができる生徒を育成する。 ○新たな学校を築いていく中で、生徒会活動を中心にして生徒たち自身で学校の決まりをつくっていく取組を進め、主体的により良い学校を築いていこうとする生徒を育成する。 ○統合前の両校の良き伝統を継承し、さらに新たな取組を積極的に取り入れ発展させるとともに、共育コミュニティ事業を中心にふるさととのつながりを一層強めることにより、より豊かな教育環境を構築し、生徒たちの確かな学力と豊かな心を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本校は、平成24年4月1日に旧本宮中学校と三里中学校が統合し、新「本宮中学校」として新しく開校したばかりである。 まさに、ひとつのふるさとにひとつの中学校となり、素直で真面目で人懐こい生徒たちが、毎日、授業や部活動に熱心に励んでいる。 ○地元産の檜による美しい学舎は、熊野本宮大社のすぐ近くの高台に位置し、世界遺産の町並みを一望できる。昨年9月、紀伊半島を襲った台風12号により当地域は大変な被害を受けたが、人々が支え合い助け合う中で、ようやく日常の生活を送ることができるようになった。辛く大変な日々が続き、その爪痕はまだあちらこちらに残っているが、災害を通してふるさと本宮の強さとたくましさと、そして優しさを改めて感じることができた。 ○本校は、旧本宮中学校が取り組んできた「共育コミュニティ」の事業を継承し、保護者・地域と一体となった学校づくりに努めている。図書ボランティアの活動をはじめ、地域の方々には学校に対して大変協力的で、様々な面で学校を支えてくれている。

分科会（公開授業会場）

学校名 ・校長名 ・所在地 ・電話番号 ・級地、学級数	児童 生徒数	公開授業		研究主題 ～サブテーマ～ ○数字 関連課題
		1校時	2校時	
たなべしりつほんぐう 田辺市立本宮小学校 G ・弓場 博視 ・田辺市本宮町耳打499 ・0735-42-0028 ・1級地、単式6 特別支援1	73	2年 【国語】 4年 【総合】 6年 【家庭科】	全校 クラブ 【4～6年】 放課後支援 【読み聞かせ1～ 3年】	『地域の人々と共に学び、豊かな表現の できる子の育成』 ～国語科・生活科・総合的な学習の時 間を中心として～ ①
たなべしりつちかの 田辺市立近野中学校 H ・大江 則人 ・田辺市中辺路町近露24-10 ・0739-65-0004 ・2級地、単式3	14	1年 【社会】 2年 【国語】	3年 【総合的な学習の 時間】	『保護者・地域と共にふるさとを愛し、 心豊かでたくましく生きる生徒の育成』 ①
たなべしりつとみさと 田辺市立富里小学校 I ・森田 春樹 ・田辺市下川下826番地 の1 ・0739-63-0173 ・1級地、複式3	28	1・2年 【国語】 3・4年 【国語】 5・6年 【国語】	全校 【生活】 【総合的な学習の 時間】	『一人ひとりが進んで表現し、ともに学 び合う授業の創造』 ⑥

研究内容	学校・地域の紹介
<p>○自己表現力や基礎学力の向上を目指し、しっかりと伝えきる力を備えた「自分の思いを豊かに表現する」ことをテーマに、各教科に於いて取り組んできた。</p> <p>○学んだ力を活用し、発展させるために、学校支援組織を有効に生かし、学校・家庭・地域が一体となった学校づくりを目指す。</p>	<p>○本校は、奈良県南部県境に接する山岳地帯にあって、熊野川やその支流沿いに点在する小集落から成り、熊野本宮大社や湯峯・川湯・渡瀬温泉などを有する古い歴史の町である。平成16年には、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録される。</p> <p>○学校は、平成18年 児童減少に伴い本宮・請川・四村川の三つの小学校が統合して開校した。三校の統合により、校区はさらに拡大し、全児童がバス通学をしている。</p>
<p>○研究仮説</p> <p>【仮説1】 ふるさとについて学び、保護者や地域の方々との交流を深めることによってふるさとを愛する生徒を育成できる。</p> <p>【仮説2】 地域や学校での体験を通じて、生きる力を身に付けて心豊かな生徒を育成できる。</p> <p>【仮説3】 生徒の自主的な活動を通じて、心身共にたくましい生徒を育成できる。</p> <p>○研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・望ましい人間関係を構築できる力を定着させるため、米作りや地域あいさつ運動の取り組みを充実させる。 ・お互いを認める活動を多く取り入れることにより、成就感・達成感を持たせ様々な場面で積極性を引き出す。 ・授業を通してまじめに取り組む姿勢を育てることにより学力向上に努める。 	<p>○近野(近露・野中)地区は田辺市街から北東におよそ40kmの山間部に位置し、周りを紀伊半島の中央部を走る山地に囲まれる小さな盆地と谷間に民家が点在している。地域住民は文化的な活動に関心が高く、数多くの文化人や知識人を輩出している。また、学校教育には大変協力的であり、地域で子どもたちを育てていこうという思いが強い地域である。また、日本の三大歴史の道として「熊野古道」が平成16年7月に世界遺産に登録が実現され、全国的に知られる地域となっている。</p> <p>○学校創立は昭和22年である。生徒数は昭和35年度126人を100とした場合、それ以降は減少し続け、平成22年度は10人の7.9%で落ち込んでいる。ただ、1ターンなどの事情により他都府県からの転入生があり、今年度は在籍生徒が14名になり3学級編成である。</p>
<p>○「国語科」(説明的文章)、「ふるさと学習」を切り込み口に、豊かな自然に恵まれた環境を生かし、地域に根ざした学習や体験活動を通して郷土を知る取り組みを大切にしながら、「一人ひとりが自分の考えを持って表現できる子」の研究を続けている。</p> <p>○言語活動の目的や意図を明確にし、言語能力を活用する活動を重視することで、児童の思考力・判断力・表現力の育成を図る。</p> <p>○教師や友達の言葉を注意深く聞き、意見を比べて相違点や共通点を見つける判断力、そこから自分の意見を創造する思考力の育成を目指す。聞く・話す観点を明確にさせる。</p> <p>○機会を捉えて書く活動を大切にする。自分の考えの形成や互いの考えの交流に生かす力の育成を目指す。表記等もふまえ、相手意識を持たせながら観点を明確にさせる。</p> <p>○ひとり学びの仕方を学ばせることでより良い複式授業を創造していく。学習リーダーを中心とした学習スタイルを定着させていく。</p>	<p>○昭和57年4月、下川小学校・平瀬小学校・上野小学校3校統合により、現在地に新校舎建築、「大塔村立富里小学校」として開設され、平成17年5月1日の市町村合併により「田辺市立富里小学校」となった。昭和58年第1回卒業生16名を送り出して以来、平成23年度末をもって171名の卒業生を送り出してきた。</p> <p>○校歌に「清く流れる日置川の岸のさつきも美しく」と歌われているように、学校は豊かな自然に囲まれた静かな場所であり、学習するには相応しい環境である。また、教育施設も充実しており、教育環境としても恵まれている。</p> <p>○地域住民は本校の教育に対してとても協力的で、地域唯一の学校として学校行事等への参加者も多く、常に物心両面で協力、援助をしてくれる。</p>

分科会（公開授業会場）

学校名 ・校長名 ・所在地 ・電話番号 ・級地、学級数	児童 生徒数	公開授業		研究主題 ～サブテーマ～ ○数字 関連課題
		1 校 時	2 校 時	
しらはまちようりつづばき 白浜町立椿小学校 J ・山本 昇 ・西牟婁郡白浜町椿 3 1 6 ・0739-46-0352 ・無級地、複式 3	2 2	1・2年 【国語】 3・4年 【国語】 5・6年 【国語】	全校 【生活科】 【総合的な学習の 時間】 発表	『文章を読み取り、自分の思いを表現で きる子どもの育成』 ～書く活動を通して～ ⑤⑥
しらはまちようりつづまい 白浜町立三舞中学校 K ・米田 秀彦 ・西牟婁郡白浜町安居 6 3 5 番地 ・0739-53-0020 ・1 級地、単式 3	1 7	1年 【社会】 2年 【英語】 3年 【数学】	全校 【総合的な学習の 時間】 「モーニングスピ ーチ」 「生徒会活動」	『豊かな心、たくましく生きる力を身に つけ、自己の生き方を考える生徒の育 成』 ～生徒の主体性が育つ活動を通して～ ③

研究内容	学校・地域の紹介
<p>○学習課題が分かりやすいように工夫して提示し、児童自らが課題解決の意識を持ち、進んで書く活動に取り組むようにさせる。</p> <p>○書く活動を間接指導の学習時に工夫して取り入れることで、児童の思考が途切れず、間接指導の学習から直接指導の学習にスムーズにつなげることができるようにさせる。</p> <p>○書いたことを元にお互いの考えを交流し合っ読みを深める工夫をすること、また、自分の考えを明確にすることで考えを深めさせる。</p>	<p>○椿は、往古より霊泉椿湯として知られ、その泉質の優秀さから湯治場として発展してきた。近年は白浜温泉の近くの保養温泉地として知られている。</p> <p>○椿地区は、5つの地区からなり、23年度末の人口は698人、世帯数は374戸である。 温泉旅館、ホテル、民宿業、老人施設を擁し眼前に広がる太平洋沖には黒潮が流れ、豊かな漁場を有し、漁業が盛んである。また、山間を流れる朝来帰川沿いに農地も若干あり、野菜や花卉類が栽培されている。</p> <p>○本校は三方を山に囲まれた自然豊かな清閑な地にある。春には桜が見事に咲き乱れるなど季節ごとに目を楽しませてくれている。また、近くにはJR椿駅があるが、民家は少なく学校前の道路は、朝夕の登下校時、自転車で椿駅に向かう中高生を見かけるだけで、交通量も少ない。</p> <p>○児童は素直で人なつこく、与えられた仕事や課題に誠実に取り組むことができる。また、22名と少人数であるため休み時間や休日には学年の枠を超えて遊んでいる。</p>
<p>○研究仮説</p> <p>【仮説1】 総合的な学習の時間や地域に根ざした学校行事において、郷土の学習を工夫し、続けることにより、地域の良さを知り、郷土の自然や産業、伝統文化を守り、自己と地域の関わりや生き方を考える生徒が育つであろう。</p> <p>【仮説2】 小中連携行事、文化祭、生徒会活動などにおいて、異年齢集団や自治的な活動の支援の仕方を工夫することにより、中学生にリーダーとしての自覚が芽生え、主体的に考え判断して活動する生徒が育つであろう。</p> <p>【仮説3】 モーニングスピーチや全校集会、教科学習の場において、自分の思いを表現する機会を工夫して設定することにより、自分の考えや思いを意欲的に伝え合うことができる生徒が育つであろう。</p>	<p>○本校区は観光の町白浜町の南部に位置し、鮎の溪流釣りで有名な清流日置川の中流域に沿う約20kmの地域と数本の支流に沿う地域とからなっている。かつては県下有数の木材産地として栄えた。現在は豊かな自然を生かしたほんまもん体験型の観光や民泊等に力を入れている。</p> <p>○校区は4小学校区であったが、平成20年度より学区変更や統合が進み現在は安居小学校・市鹿野小学校の2校となっている。また、平成19年度には川添中学校との統合も行なわれたが生徒数の減少は続いている。</p> <p>○平成18年度より小中連携学力向上推進協議会を組織して児童生徒の学力向上を願い、合同研修や出前授業、行事の交流等を継続して行っている。昨年度は、研究授業の事前研修を合同で実施するなどの工夫を凝らした取り組みを行っている。</p>